

室内で見られるコバエ類の対策について伺います

技術委員 渡邊 賢太郎

《質問》

家の中に小さなハエが飛んでいますどんな種類がいますか？

《回答》

食品にたかったり、目の前を飛び回ったりとうとうしい小さなハエ類(以下コバエ類)ですが、その種類は多く、形態や生態が異なるので対策方法も異なります、コバエ類の対策には、種類の特定が必須ですので各種類の詳細については協会HPの《害虫相談の内容コバエ》をご参照ください。

◎コバエ類の代表的な種類

ショウジョウバエ類

特徴：体長約2.5mm。体色は黄褐色～黒色。翅(はね)は透明です。眼が赤く体色が淡褐色をしているものが多い。歩き方は比較的ゆっくりと歩きます。



ノミバエ類

特徴：体長は1.1～2.2mm。体色は褐色、脚は

発達しており、特に後脚の腿節が特に幅広くなっています。歩き方は素早く動きます。



チョウバエ類

特徴：体長は1.5～5.0mm。体色は灰白色～灰色、黒色で、大きな翅(はね)と体や翅の全体に灰色の毛が生えた様に見えます。



フンコバエ(ハヤトビバエ)類

特徴：成虫の体長1～3mm。体色は黒色でショウジョウバエに似ているが、全体が黒っぽい体色をしている。歩き方はゆっくりで夜行性のものが多い。

室内で見られるコバエ類の対策について伺います



ニセケバエ類

特徴：体長1.0～3.0mm。体色は黒く触角は太く棍棒のような形態をしています。



クロバネキノコバエ類

特徴：成虫の体長1.1～5.0mmのものが多いが、10.0mm近くになる種もいる。体色は暗褐色から黒色で翅(はね)は透明や黒褐色です。カに似ているが翅や体色が黒い色をしています。ゆっくりと歩きます。



《質問》

どんな対策をしたらよいですか？

《回答》

◎誘引阻止対策

室内に侵入してくる前にまず、屋外にいる個体が建物に近づいてきますので、この対策が必要となります。

○光源の対策

昆虫は夜間照明光に含まれる紫外線に誘引され集まってきますので、室内光が漏れるガラスに紫外線をカットするフィルムの貼付や、紫外線を出さないLED照明に変更することが有効です。

○臭いの対策

コバエ類が室内に入ってくる一番の要因として餌の臭いがあげられます。とくに、食品やゴミの臭いは大きく関係してきますので食品の管理や清掃は重要となります。屋外に置いているゴミ袋やゴミ箱も臭いが漏れない密閉できるものを使用することも有効です。ゴミ箱は容器の洗浄も必要となります。

【ハエ類の好む臭いの成分は、アルコール類、エステル類、揮発性脂肪酸類、窒素化合物、硫黄化合物などで、いずれも発酵、腐敗、果実の熟成、生物の老廃物、腐敗物などに含まれる臭いの元となる成分です。】

◎侵入対策

コバエ類は体も小さいことからごく僅かな隙間から侵入します。ごく一般的な窓も閉めていても構造上の隙間があるほか、網戸も目の大きいタイプのものは侵入してしまいます

し、ヒトの出入り時にも侵入してきます。ありとあらゆる場所から侵入してくると考えた方がよいでしょう。

◎発生源の対策

問題なのは侵入したコバエ類が室内で発生し個体数が増える事です。発生源はそれぞれ異なりますので合わせた対策が必要です。

ショウジョウバエ等は果物や野菜の熟成物や腐敗物、漬物などの発酵食品の管理、ノミバエ類は動物質ものや動物糞など、チョウバエ類は排水残渣、フンコバエ類はゴミや排水残渣や排水の漏水箇所からの発生事例も多いので修繕や排水管の清掃、クロバネキノコバエは腐食性植物質や植物の根等から発生するので植木鉢や庭の植栽周りの手入れ(落ち葉の

清掃など)も必要です。また、漏水が原因で建材(木材)が腐朽菌に侵されると発生源となりますので修繕が必要となります。

いずれの場合も管理や清掃が重要ですので日常から実施することが必要です。食品の管理、生ゴミなどは臭いが漏れないように密閉する、排水関係の清掃、植木鉢や植栽の手入れ等の他、場合によっては屋根裏に侵入したハクビシン、アライグマ、ネズミ等の動物の糞や死体が発生原因となりますので侵入動物の対策も必要となります。

コバエの対策を取るには、被害を起こしているコバエの種類特定が重要となります。種類が判明したらその種類に合わせた対策を実施します。成虫対策として市販の殺虫剤を使用する場合は用法用量を必ず守り使用してください。

